20200226. Vol2

第 14 回　日本胸部外科女性医師の会

－活動報告書－

代表世話人

齋藤　綾　（東邦大学医療センター佐倉病院　心臓血管外科）

世話人

神吉佐智子（大阪医科大学　心臓血管外科）

山崎祥子（京都府立医科大学　心臓血管外科）

林田恭子　（舞鶴共済病院　心臓血管外科）

はじめに

今年も、第 72 回日本胸部外科学会学術集会の男女共同参画セッションに連続して、ランチタイムに開催することができました。1 時間という限られた時間ではありましたが、家庭と仕事で忙しい女性医師でも参加しやすいお昼の時間帯に、男女共同参画セッションと関連を持たせて開催できたことは有意義でした。

本会では、「日本を飛び出しトレーニング！」と題し、アメリカでの臨床留学ついて、Mayo Clinic 呼吸器外科の Shanda H. Blackmon 先生と、Baylor College of Medicine　心臓血管外科の Ourania Preventza 先生にお話しいただきました。お二人ともアメリカの胸部外科領域の第一線でご活躍の女性外科医で、若手のキャリア形成を見据えたアメリカでのトレーニングプログラムや参加要件等をお聞きすることができました。国外および日本各地から男女合わせて 22 名にご参加いただき、時間のぎりぎりまで質疑応答が続き、その後も名刺交換など今後につながる人脈形成にも寄与することができたと考えています。

日本胸部外科学会男女共同参画委員会、学会事務局ならびに第 72 回日本胸部外科学会会頭の伊達洋至先生には多大なるご尽力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

第14回 日本胸部外科女性医師の会
キャリアアップセミナー

日本を飛び出しトレーニング！
～アメリカでの臨床留学編～

講師　Prof. Shanda H. Blackmon
(Thoracic Surgery, Mayo Clinic)

Associate Prof. Ourania Preventza
(Cardiothoracic Surgery,
Baylor College of Medicine)

座長　前田　寿美子先生
（獨協医科大学）
根本　寛子先生
（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

米国・胸部外科領域の第一線でご活躍のお二人の
女性外科医師に、キャリアを見据えたアメリカでの
トレーニングプログラム等についてお話いただきます。

11月1日(金) 12:10～13:00

（受付開始12:00）

会場：国立京都国際会館　Room 104
男女共同参画セッション会場（C-2）からすぐ

参加費：無料（昼食あり）

参加申し込み不要！
男女問わず、
是非ご参加ください！
wts-japan.org/

主催：日本胸部外科女性医師の会
共催：日本胸部外科学会 / 日本医師会

概要

日　時：	2019 年 11 月 1 日（金）　12:10～13:00
会　場：	国立京都国際会館　Room 104
講　師：	Dr. Shanda H. Blackmon Thoracic Surgery, Mayo Clinic, USA Dr. Ourania Preventza Cardiothoracic Surgery, Baylor College of Medicine, USA
テーマ：	日本を飛び出しトレーニング！～アメリカでの臨床留学編～
司　会：	前田寿美子先生（獨協医科大学　呼吸器外科） 根本寛子先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
会　費：	無料（昼食付き）

参加者一覧（敬称略）

名前	所属	部署
八木　葉子	八戸西検診プラザ	心臓血管外科
齋藤　綾	東邦大学医療センター佐倉病院	心臓血管外科
立石　実	聖隷浜松病院	心臓血管外科
小林　晶	兵庫医科大学	呼吸器外科
禹　英喜	北摂総合病院	心臓血管外科
荻窪　まどか	藤沢市民病院	研修医
千歳　樹子	大阪大学	心臓血管外科
磯野　友美	近大奈良病院	心臓血管外科
岡本　順子	大阪医大	胸部外科
前田　寿美子	獨協医科大学	呼吸器外科
徳永　滋彦	JOHO 九州病院	心臓血管外科
中原　理恵	栃木県立がんセンター	呼吸器外科
盛田　興輔	医療法人住友別子病院	研修医
根本　寛子	横浜市大付属市民総合医療センター	心臓血管外科
寺澤　幸枝	名古屋大学	心臓外科
平野　弘嗣	三重大学	心臓血管外科
島村　浩一	東京大学	心臓血管外科
神吉　佐智子	大阪医科大学付属病院	心臓血管外科
山崎　祥子	京都府立医科大学付属病院	心臓血管外科
Isabelle Opitz	University Hospital Zurich, Switzerland	胸部外科
Shanda Blackmon	Mayo Clinic, USA	胸部外科
Ourania Preventza	Baylor College of Medicine, USA	心臓血管外科

講演内容

今回は米国から招請されたお二人の講師にご協力いただきました。
お一人目は Dr. Shanda Blackmon, Professor of Thoracic Surgery Mayo Clinic　Rochester, President of Women in Thoracic Surgery (我々WTS in Japan のお手本となった団体) からご講演いただきました。Mayo Clinic の創始者　Dr. William J. Mayo の言葉　'The best interest of the patient is the only interest to be considered'が各種言語で掲示され、Mayo Clinic の理念及びそれに基づいた臨床・研究活動について全米レベルでの取り組み（Mayo Clinic in Rochester, Phoenix, Jacksonville)、規模（総従業員数 65214 名)、教育・研究機関及び資産($1.1billion)、地域医療を基盤とするネットワーク事業についてご紹介された。更に各論として外科学教室、胸部外科学教室について紹介された。胸部外科学教室には心臓外科、呼吸器外科が含まれ前者でスタッフ 13 名＊手術室 11 室、後者でスタッフ 7 名＊手術室 4 室を運用するなど、大規模な教室であることが伺われた。また、レジデント教育プログラム（Journal club, Simulation center, 教育担当者）についての紹介もあった。手厚い人員及び資源に恵まれ和気あいあいとした写真がたくさん盛り込まれたプレゼンテーションであった。

お二人目は Dr. Ourania Preventza, Professor of Cardiovascular Surgery, Baylor College of Medicine からご講演いただいた。Dr. Preventza はまだ Associate Professor であった頃の第 12 回 WTS in Japan にて米国における女性医師の現状や問題点などについて真に迫るお話を賜っており、日本を含め米国内外の女性医師支援に非常に熱心な方である。今回は来日直前に教授に就任されたばかりで非常にエネルギー漲る様子であった。ご自身がギリシャ出身であり、米国にとって「外国人」という立場で医療教育を受け医師免許を取得し修練を積んだ経験談からお話は始まった。American Board of Thoracic Surgery への 4 通りのパスについて言及され、residency period での具体的な手術研鑽や全米各地や諸外国で提供されている臨床・研究フェローシップについて触れられた。それぞれのキャリアに応じたフェローシップの機会がありうることについて説明され、その中には日本胸部外科学会が米国胸部外科学会（American Association for Thoracic Surgery, AATS）と連携して提供するフェローシップの紹介も含まれた。今後米国留学を目指す若手にとって具体的な情報が多く、講演後も多くの質問に対応されていた。途中からではあったが Prof. Isabelle Opitz（スイス、胸部外科医）にも足をお運びいただけた。

最後は恒例の集合写真撮影を行った。若手女性医師のみならず若手及び教育者の立場におられる男性医師にもご参加いただき、参加者数から見た規模は大きくはないが多くの情報提供ができた会ではなかったと考えている。

会場風景

おわりに

過去に開催してきた会の内容は、概ね自分たちの見識を深めることに主眼が置かれており、日本及び諸外国の先輩方に経験談をお話しいただく設定が多くありました。年月を経て世話人たちの学年も上がり「自分たちが後輩たちにどのような情報提供・協力ができるのだろうか？」という思いが徐々に芽生え、今回の集会では今後海外留学に興味をお持ちの若手の先生方に情報発信をするべく講演内容を検討いたしました。米国でも有数の Mayo Clinic 及び Baylor College にて教授職に就かれているお二人の女性外科医にご講演いただくことが叶い大変有意義な集会になったのではないかと自負しております。また、世話人以外の先生方にも司会の労をお取りいただき一緒に会を作り上げることにご協力いただきました。今回は医学部生の方々にご参加いただくことができませんでしたが、今後も「若い聞き手・教育者側の聞き手が何を知りたいか、何を得たいか」ということ等に意識して内容構成を組み立てていくことができるよう知恵を絞りつつ頑張りたいと思います。

最後になりましたが、今回無事に第 14 回目の会を開催するに至り、お世話になった方々へ心より謝辞を申し上げます。

（文責：齋藤　綾）